



片平キャンパス 歴史的建造物

1907(明治40)年に東北帝国大学が創設された本学発祥の地であり、昭和40年代前半までは多数の学部・研究所が集まった大学のメインキャンパスでした。青葉山・川内キャンパスへ工学部などの移転整備が進められた以降は、金属材料研究所、電気通信研究所などの世界的な研究成果を挙げている研究所や大学本部を中心とするキャンパスとして整備が進められてきました。時代にあった教育・研究環境を整備するとともに、学部仙山の面影を残す歴史的建造物を維持・保全してきており、2017年に5件、2021年に8件が登録有形文化財に指定されました。またキャンパス内の豊かな緑と近代建築が評価され、仙台市の「都市景観大賞」や、せんだいデザインウィークの「伝統デザイン賞」、「都市景観の日」実行委員会主催の都市景観大賞特別賞を受賞しています。

① 東北大学正門

大正15(1926)年に建造された御影石貼の4本の角柱からなる門。門が街の中心部とは違う方向に開かれているのは仙台城を意識しているためだといわれています。(登録有形文化財)



② 東北大学史料館→

大正15(1926)年に建設された旧東北帝国大学附属図書館閲覧室。現在では、百年にわたる東北大学の記録文書をはじめ、東北大学やその構成員に関する歴史的資料を保存・公開する史料館として様々な企画展を開催し公開しています。(登録有形文化財)



③ 東北大学本部棟1→

昭和2(1927)、7(1932)、10(1935)年と3期に渡って建てられた旧東北帝国大学理学部化学教室は、大規模な改修を経て大学本部棟1として利用されています。スクラッチタイルの表情と周りの緑が相まって、学部仙山のシンボルといえるような雰囲気があります。(登録有形文化財)



④ 魯迅の階段教室→

明治37(1904)年に建てられた、仙台医学専門学校の建築的遺構(医専六号教室)であり魯迅が学んだ校舎としても歴史的に貴重な建物です。当初は、⑤博物・理化学教室棟と一体の建物でした。(登録有形文化財)



⑤ 東北大学本部棟3↓

(旧仙台医学専門学校博物・理化学教室)
明治37(1904)年築の仙台医学専門学校の建築的遺構。東北帝国大学理学部地質学教室、保健管理センターなどに利用された後、現在は公開施設等として利用しています。(登録有形文化財)



⑥ 東北大学本部棟7↓

(旧東北帝国大学理学部生物学教室)
大正13(1924)年完成。仙台で最初期の鉄筋コンクリート造で、ゼツェッション様式の玄関廻りや円形コーナーが美しい建物。放送大学、展示施設等として使用しています。(登録有形文化財)



⑨ WPI-AIMR 本館と北門→ (旧東北帝国大学工学部 金属工学教室外壁)

大正13(1924)年に建てられた建物を外壁を残し改築。スクラッチタイルの創り出す落ち着いた雰囲気は片平キャンパスの顔として90年以上親しまれています。また北門周辺も開かれたキャンパスとして塀や門扉を撤去しポケットパーク状に再生しました。



⑩ 多元物質科学研究所 南1号館+事務部棟→

大正15(1926)年に焼失した東北帝国大学工学部の機械工学及び電気工学教室の新築として昭和5(1930)年に建てられた本学工学部の歴史を伝える建物です。エントランスホールが帝国大学の気品を残しています。(登録有形文化財)



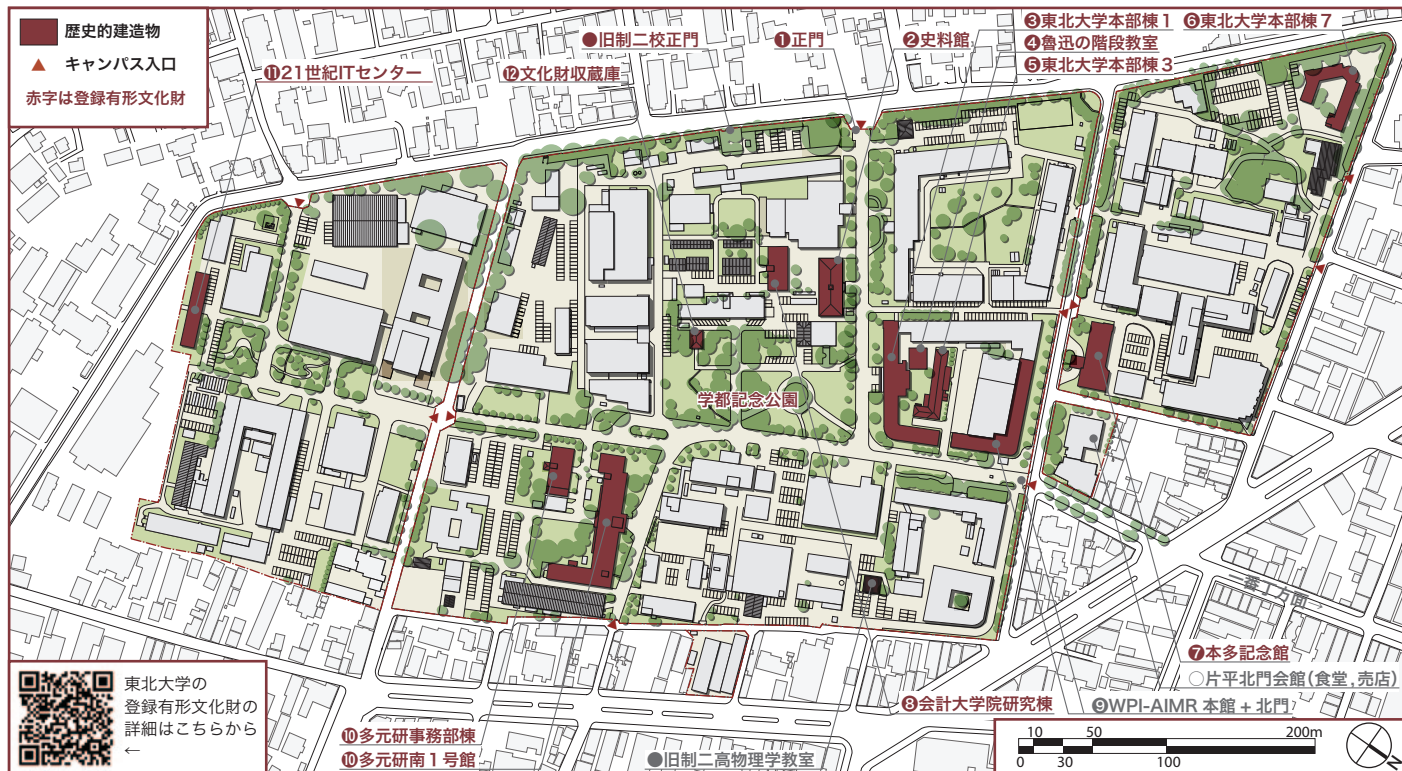
⑪ 21世紀ITセンター→

仙台高等工業学校の建築学科であり、南六軒丁に向けたゲートとして昭和5(1930)年に建設、一時は東北大学の建築学科としても使用されました。表現主義的デザインで、仙台高等工業のマークが入った煉瓦アーチも特徴的です。(登録有形文化財)



⑫ 文化財収蔵庫→ (旧第二高等学校書庫)

明治43(1910)年ごろに建てられた仙台に残る明治期煉瓦造建築の貴重な例。明治維新後、全国に建てられた煉瓦造建築の歴史を伝える遺構であり、仙台では他に例がなく貴重な都市財産です。(登録有形文化財)



⑦ 本多記念館↓(登録有形文化財)

昭和16(1943)年に第6代総長本多光太郎の功績を記念し建てられた建物。建設が戦時中で、鉄筋の手配等が非常に困難だったそうです。2階の本多記念室では所長室の様子や直筆のノートなどが閲覧出来ます。



⑧ 会計大学院研究棟↓

昭和2(1927)年に完成した旧法文学部第二研究室。旧制第二高等学校本館のデザインを継承し、切妻破風を乗せて変化をもたせたファサードが特徴的です。(登録有形文化財)

